

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	筑波大学	整理番号	C01
プログラム名称	ヒューマンバイオロジー学位プログラム		
プログラム責任者	阿江 通良	プログラムコーディネーター	澁谷 彰

(評価決定後公表)

(総括評価)

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、プログラムの目的に基づいた諸規則やその具体的方策の整備などに大学全体として積極的に取り組むとともに、幅広いカリキュラムの展開、複数教員指導制や段階的な学位審査体制の構築、インターナショナルドミトリーの提供など、総合的かつ効果的な取組が行われていると評価できる。今後はこれらの取組を継続するとともに、より具体的なグローバルリーダー像を打ち出していくことが望まれる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、海外ラボレーションや海外企業インターンシップなどが計画的に準備、展開されていると評価できる。ただし、学生は全体的にアカデミア志向が強いと思われ、多様なキャリアパスをより早い時期から提示するなど、グローバルリーダーとしての志向性を高めるための一層の工夫が期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、世界トップクラスの大学の教員を副研究指導教員とする複数教員指導制や全授業の英語化、海外での演習（適正技術教育）、国際シンポジウムなどを通じて、順調に進められてきていると評価できる。今後、学生の要望・意見等を十分に汲み取って、カリキュラムの継続的改善を考え、現行の体制をより効果的なものに進化させていくことを期待したい。

優秀な学生の獲得については、海外での広報活動及び入試実施により、アジアを中心とした多くの国からの留学生を得ているが、更に多様な地域からの留学生の参画が望まれる。また、5年一貫のプログラム修了後のキャリアパスが未だ具体的ではないことが、国内の優秀な学生の参画を阻んでいることも懸念される。国内外併せて継続的に優秀な学生を獲得するためには、本プログラムの将来の方針を速やかに構築するとともに、学生の獲得方法を見直すことが望まれる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、プログラムに関する外部評価委員会、複数教員指導制や段階的な学位審査体制などにより、計画通りに整備されていると評価できる。なお、QE (Qualifying Examination) など、学年進行で展開、実施されていく制度は、有効性や成果について実際の経験を踏まえながら検証していくことが望まれる。

事業の定着・発展については、予算が縮小される可能性はあるものの、大学として本プログラムを継続、発展させる方針が明示され、プログラム担当者によるプログラム継続に向けた真摯な取組も窺われた。引き続き、支援期間終了後も適切な規模で継続できるよう、適宜検討を加えつつ、発展的に本プログラムを見直していくことが期待される。